①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・公式を用いて長方形，正方形の面積を求めることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・4年「角とその大きさ」において，角を2つに分けることで，180°より大きい角を求める学習をしている。

教材研究ノート№4-B-5

≪学習問題≫

右の図形の面積を求めましょう。

≪学習問題≫

主眼

授業計画･実施記録

②見通し:長方形や正方形じゃないから公式が使えない。

→長方形や正方形に分ければ公式が使える。

②学習課題:切って分けたり，付けたしたりして，長方形や正方形になるように考えて，面積を求めよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:図と式をつなげて考えた求め方を追究する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの求め方にも共通していることはなんだろう？」

→「長方形に分けて，たしたり引いたりして求めている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「面積を分けたり合わせたりして求めてもいいのかな？」

→「面積は1㎝２の正方形がいくつ分あるかで表すから，分けたり合わせたりすることができる。」

「今までにも，分けたり合わせたりして答えを求めた学習があったね。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・凸凹のある図形の面積は，長方形や正方形のように面積の求め方を知っている形に分ければ，公式を使って求められる。

・面積は，角度と同じように分けたり合わせたりできる。

⑥定着･活用問題

どのようにして面積を求めたのかな？

（単位 ㎝）

(7＋2)×(4＋4)＝72

4×2×2＝16

72－16＝56

答え　56㎝２

7

2

2

7

4

4

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・公式を用いて長方形や正方形の面積を求められるようになり，求積に自信をもち始めている子どもたちなので，導入で「公式を使って面積を求められないか」を問うことで，本時の困難と見通しをもたせ，終末で補助線をひくよさを実感させたい。

・図の分け方と式の形を丁寧に対応させ，図と式を双方向によみとる活動を取り入れたい。

【板書計画】